

研究課題名 (倫理委員会承認番号)	慢性硬膜下血腫に対する小開頭血腫除去術の有用性とリスク 202416
当院の研究責任者(所属)	蛭子裕輔 (脳神経外科)
他の研究機関及び 各施設の研究責任者	該当なし
本研究の目的	慢性硬膜下血腫の標準的外科治療は穿頭血腫洗浄術(A)であるが、当院では穿頭で十分に血腫洗浄できないと見込まれる症例に対しては小開頭血腫除去術(B)を行ってきた。今回、B の有効性およびリスクについて、後方視的に検討する。
調査データの該当期間	倫理審査委員会承認後 ～ 2025 年 12 月 31 日
研究の方法 (対象となる方)	慢性硬膜下血腫に対して 2020 年 1 月 1 日～2024 年 9 月 30 日の間に当院にて穿頭血腫洗浄術もしくは小開頭血腫除去術を施行した方 【除外基準】 本人、あるいは代諾者から承認の得られない患者 医師が不適切と判断した患者
研究の方法 (使用する情報)	(1) 研究方法 対象は、2020年1月1日から2024年9月30日までの間に当院でAもしくはBを行った332例とした。術式は、MRIを含む術前画像で血腫に固形成分が多くあるか、隔壁が著明である場合にBを選択した。再発は、再手術を要した場合とした。再発を検討するため、手術前後2週間以内に中硬膜動脈塞栓術を施行した症例は除外した。血腫の最大厚を、CTの冠状断でMonro孔が見えるスライスで計測した。まず非再発群と再発群で背景因子や手術因子を比較し、次にA群とB群の間で各因子を比較検討した。 (2) 解析方法 (本院で ☐ 実施しない ☒ 実施する) 背景因子の各項目を、t検定、Mann-Whitney U検定、Fisher直接検定で比較検討する。 (3) 評価項目・方法 背景因子：年齢、性別、左右、術式 (A/B) 、再発の有無、血腫の厚さ、ドレーン留置の有無、抗血小板薬・抗凝固薬の服用、術後合併症（急性硬膜下血腫、硬膜下膿瘍）の有無
資料・情報の他機関への提供	該当なし
個人情報の取り扱い	データの解析および研究成果の発表・公表においては、個人を特定できる形としない。
本研究の資金源 (利益相反)	なし
お問い合わせ先	翠清会梶川病院 脳神経外科 蛭子裕輔
備考	